

岸田理生カンパニー<国境を越える演劇シリーズ Vol.17 >

ソラ ハヌル ランギット

登場人物

囚人1 100 Kee Tong

囚人2 黄 鐸河

囚人3 柴崎正道

風 今野真智子

帰って来た男 小林達雄

男1 諏訪部仁

男2 竹広零二

男3 宗方駿

女1 雛涼子

女2 吉見絹

女3 木島弘子

女4 笠松環

Scene 1

いきなり白々とした明りがく町への広場を浮かび上らせる。と、あちこちからく町の人々々が歪んだ足取りで現われて来る。男1と女1は夫婦、男2と女2は恋人、男3と女3は兄弟。女4は孤児である。

男1 Kigo (お早うございます)

男2 Kigo

女1 Kigo

女2 Kigo

男3 Kigo

女3 Kigo

女4 Kigo

男1 Gokinezu ？

男2 Nezu (元氣です)

男3 Nezu

女1 Nezu

女2 Nezu

女3 Nezu

女4 Nezu

男1 Godo (実はね)

男2 Dogo? (何ですか)

男1 歯ブラシをGoki (もらいましたよ)。Zune (新しい) 歯ブラシ Go (です)。(取り出して見せる)

男2 Dobugoki (私もですよ)

男3 Dobugoki

女1 Dobugoki
女2 Dobugoki
女3 Dobugoki
女4 Dobugoki
男1 Budo 歯磨き！（歯磨きしましょう！）
男2 Budo！（しましょう！） 歯磨き！
男3 Budo 歯磨き！
女1 Budo 歯磨き！
女2 Budo 歯磨き！
女3 Budo 歯磨き！
女4 Budo 歯磨き！

<町の人々>は歯磨きをはじめ。

男1 歯磨き Dorigo！（終わり！） Mini（次は）、体操 Go！（です！）
男2 体操 Budo！（しましょう！）
男3 体操 Budo！
女1 体操 Budo！
女2 体操 Budo！
女3 体操 Budo！
女4 体操 Budo！

<町の人々>は、歪んだ体操をする。

男1 体操 Dorigo！（終わり！） Mini（次は）、掃除 Go！（です！）
男2 Budo！（しましょう！） 掃除！

男3 Budo！ 掃除！
女1 Budo！ 掃除！
女2 Budo！ 掃除！
女3 Budo！ 掃除！
女4 Budo！ 掃除！

〈町の人々〉は掃除をはじめ。
動作は早くなり、去ってゆく。

と、牢獄の一つに明りが差し。そうして囚人1が話しはじめる。

囚人1 朝が言う・・・影を飲みたい。

そして僕は目覚めて言う。お早ようございます。

僕が求めるのは僕の言葉だ。

侵入者たちが現われる以前に僕たちが使っていた言葉だ。

今も澄み切った泉は昏を求めている。

僕は思う。

明日になれば僕たちの言葉が静かな水面をゆさぶりその小波（さざなみ）を

希望でふくらますだろう。

光輝き落着いて、思想に満ちた一つの言葉。

笑い声で静寂を満たす言葉。

すべての出来事を中心に迫る言葉。

とこしえの魂の喜びに最後にはやすらう言葉、・・・僕の言葉。

帰って来た男に明りが差し、男は言う。

帰って来た男

朝が言う・・・影を飲みたい。

そして僕は目覚めて言う。お早ようございます。

僕が求めるのは僕の言葉だ。

侵入者たちが現われる以前に僕たちが使っていた言葉だ。

今も澄み切った泉は唇を求めている。

僕は思う。

明日になれば僕たちの言葉が静かな水面をゆさぶりその小波（さざなみ）を

希望でふくりますだろう。

光輝き落着いて、思想に満ちた一つの言葉。

笑い声で静寂を満たす言葉。

すべての出来事を中心に迫る言葉。

とこしえの魂の喜びに最後にはやすらう言葉・・・僕の言葉。

そして囚人2が話し始める

囚人2

血を吹く泉　僕の心臓。

心臓の音は言う。言葉を忘れるな、と。

遠くの白い手よ、僕に言葉を忘れさせないでくれ。

遠くの白い手よ、楽しく歌い乍ら、僕の言葉を運んでくれ。

霧に消えた鐘の響き。言葉の鐘よ。再び鳴ってくれ。

海・・・海が見たい。遠くにほ、えむ波の泡。青空の唇。

海は今も海の言葉を話し、空は空の言葉を話している。

夜毎、僕は塩辛い涙を流す。母の為に・・・。

言葉を奪われ、僕の母は、自分を殺した。

誰が言うだろう。水は泣き声の鬼火を運ぶ、と。

帰って来た男は囚人2の台詞を日本語でくり返す。

帰って来た男

血を吹く泉 僕の心臓。

心臓の音は言う。言葉を忘れるな、と。

遠くの白い手よ、僕に言葉を忘れさせないでくれ。

遠くの白い手よ、楽しく歌い乍ら、僕の言葉を運んでくれ。

霧に消えた鐘の響き。言葉の鐘よ。再び鳴ってくれ。

海……。海が見たい。遠くにほ、えむ波の泡。青空の唇。

海は今も海の言葉を話し、空は空の言葉を話している。

夜毎、僕は塩辛い涙を流す。母の為に……。

言葉を奪われ、僕の母は、自分を殺した。

誰が言うだろう。水は泣き声の鬼火を運ぶ、と。

そして囚人3が話しはじめる。

囚人3

叫び声の一つ。その楕円。山から山へ、ころがってゆく。

木々の間から、青い夜空に立つだろう黒い虹。

空にのぼってゆく、嘆きの渦巻き。

山々は見えている。遠のいてゆく言葉。

奪われた言葉……。苦しみの土地。

奪われた言葉……。悲しみの泥水（どろみず）。

監視の視線……。飛び交う矢。

けれど俺は話す。俺の言葉を。

言葉のあとに来るもの……。それは拷問。

狭い路地をゆく、マントにくるまった侵入者たち。

監視塔の上で見張り人はまわる。

けれど俺は話しやめない。

帰って来た男は囚人3の台詞を日本語でくり返す。

帰って来た男

叫び声の一つ。その楕円。山から山へ、ころがってゆく。

木々の間から、青い夜空に立つだろう黒い虹。

空にのぼってゆく、嘆きの渦巻き。

山々は見ている。遠のいてゆく言葉。

奪われた言葉・・・苦しみの土地。

奪われた言葉・・・悲しみの泥水（どろみず）。

監視の視線・・・飛び交う矢。

けれど俺は話す。俺の言葉を。

言葉のあとに来るもの・・・それは拷問。

狭い路地をゆく、マントにくるまった侵入者たち。

監視塔の上で見張り人はまわる。

けれど俺は話しやめない。

Scene 2

奏される音楽。最初は静かにやがて激しく。
そして見えない手で拷問される囚人1、2、3。

囚人1 心臓に深く入り込む短刀・・・贗物の言葉。

休んでいる畑に喰い込む鋤の鋭い刃・・・嘘の言葉。

帰って来た男は囚人1の台詞を日本語でくり返す。

帰って来た男 心臓に深く入り込む短刀・・・贗物の言葉。

休んでいる畑に喰い込む鋤の鋭い刃・・・嘘の言葉。

囚人2 引きミニくらい谷間に火を放つ太陽の光線・・・短刀。

贗物の言葉。

俺は負けない。

帰って来た男は囚人2の台詞を日本語でくり返す。

帰って来た男 引きミニくらい谷間に火を放つ太陽の光線・・・短刀。

贗物の言葉。

俺は負けない。

囚人3 北風・・・街灯が一つ。

体に刺される短刀・・・贗物の言葉。

俺は負けない。

帰って来た男は囚人3の台詞を日本語でくり返す。

帰って来た男 北風・・・街灯が一つ。

体に刺される短刀・・・贖物の言葉。
俺は負けない。

囚人1 街路のふるえ。

帰って来た男 街路のふるえ。

囚人2 張りつめた糸のふるえ。

帰って来た男 張りつめた糸のふるえ。

囚人3 雲のふるえ。

帰って来た男 雲のふるえ。

帰って来た男は囚人1、2、3の台詞を日本語でくり返す。

囚人1 いたるところにいる、

囚人2 巨大な監視人の眼。

囚人3 俺は見る。

囚人1 心臓に刺さった、

囚人2 短刀、

囚人3 贖物の言葉。

帰って来た男は囚人1、2、3の台詞を日本語でくり返す。

帰って来た男

いたるところにいる、

巨大な監視人の眼。

俺は見る。

心臓に刺さった、

短刀、

贗物の言葉。

演奏は狂気じみ、囚人たちへの拷問は激しさを増す。

暗転。

Scene 3

帰って来た男に明りが差す。男は言う。

帰って来た男 新しい町。過去はどこにも残っていない。い、や

すべては残っている俺の記憶の中に。

<町の人々>侵入者たちが教え込んだ言葉を話し、母国語を守った友人（ともびと）
たちは、牢獄に閉じ込められた。

帰って来た故郷。風景は変わり、人々も変わった。

俺はいつも思い出す。昔の出来事を。

囚人1、2、3に明り+が差し、奏される音楽。

囚人1 お早う！

囚人2 お早う！

囚人3 お早う！

囚人1 時折、俺は挫けそうになる。そんな時、助けてくれるのはあんたたちだ。

帰って来た男 時折、俺は挫けそうになる。そんな時、助けてくれるのはあんたたちだ。

囚人2 時折、言葉の迷路に迷い込みそうになる。そんな時、助けてくれるのはあん
たちだ。

帰って来た男 時折、言葉の迷路に迷い込みそうになる。そんな時、助けてくれるのはあん
たちだ。

囚人3 時折、俺は自分を見失いそうになる。そんな時、助けてくれるのはあんた
たちだ。

帰って来た男 時折、俺は自分を見失いそうになる。そんな時、助けてくれるのはあんただ。
ちだ。

帰って来た男は囚人1、2、3の台詞を日本語でくり返す。

囚人1 内側からも。

帰って来た男 内側からも。

囚人2 外側からも。

帰って来た男 外側からも。

囚人3 開かない扉。

帰って来た男 開かない扉。

帰って来た男は囚人1、2、3の台詞を日本語でくり返す。

囚人1 名を奪われ、

帰って来た男 名を奪われ、

囚人2 番号で呼ばれる、

帰って来た男 番号で呼ばれる、

囚人3 俺たち。

帰って来た男 俺たち。

帰って来た男は囚人1、2、3の台詞を日本語でくり返す。

囚人1 歌ってくれ。いつもの歌を。

囚人2 あ、。

囚人2は「アリラン」を歌う。

囚人2 踊ってくれ。いつもの踊りを。

囚人3は踊る。

囚人3 聞かせてくれ。いつもの歌を。

囚人1は「漕がれる舟」を歌う。

囚人1 弾いてくれ。いつもの曲を。

奏される音楽。

帰って来た男は囚人1、2、3の台詞を日本語でくり返す。
束の間のやすらぎ。

だがく町の人々が次々と現われて来る。

男1 Zudone！（止めてくれ！）

男2 Zudone！

男3 Zudone！

女 1	Zudone !
女 2	Zudone !
女 3	Zudone !
女 4	Zudone !
男 1	Mi (お前たちが)
男 2	Zu (歌うと)
男 3	Mi (お前たちが)
女 1	Ne (踊ると)
女 2	Mi (お前たちが)
女 3	Bu (演奏すると)
女 4	Do (私たちが)
男 1	Ribukigo (迷惑する)
男 2	Ribukigo
男 3	Ribukigo
女 1	Ribukigo
女 2	Ribukigo
女 3	Ribukigo
女 4	Ribukigo
男 1	Do (俺たちは)
男 2	Bunezu (選んだ)
男 3	Dobu (自らの)
女 1	Budo (意志で)
女 2	Dori (教えられた)
女 3	Nekigo (言葉を)
女 4	Kido (話すことを)
男 1	Dori

男2 Buzune (踊りを)
男3 Buzuneki (踊ることを)
女1 Dori
女2 Zuneki (歌を)
女3 Zunekiki (歌うことを)

＜町の人々＞は調子の狂った歌を歌い、歪んだ踊りを踊る。
囚人たちは哀し気な眼で＜町の人々＞を見ている。
やがて踊り乍ら去ってゆく＜町の人々＞。

Scene 4

一人の少女が現われる。帰って来た男は叫ぶ。

帰って来た男 来た！ 記憶の宝物が来た。

少女は囚人1の牢に入っゆく。驚く囚人1。

囚人1 開かない筈の扉が開いた。

帰って来た男 開かない筈の扉が開いた。

少女は笑む。帰って来た男は囚人1の台詞を日本語でくり返す。

囚人1 君は誰？

帰って来た男 君は誰？

少女 (手話で) 私は風。

帰って来た男は囚人1と少女の台詞をくり返す。

囚人1 どこから来たんだ？

帰って来た男 どこから来たんだ？

少女 (手話で) 遠くから。

囚人1 どこへ行くんだ？

帰って来た男 どこへ行くんだ？

少女 (手話で) どこかへ。

帰って来た男は囚人1と少女の台詞をくり返す。

囚人1 僕は触れたい。君の髪に、君の額に、君の捷毛に、君の眼に、君の鼻に、君の唇に、君の肩に、君の背中に、君の乳房に、君の腹に、君の足に、君の腕に、君の手に、君の指に。

帰って来た男 僕は触れたい。君の髪に、君の額に、君の捷毛に、君の眼に、君の鼻に、君の唇に、君の肩に、君の背中に、君の乳房に、君の腹に、君の足に、君の腕に、君の手に、君の指に。

少女は頷き、帰って来た男は囚人1の台詞を日本語でくり返す。
ゆつくりと少女に触れる囚人1。

静かに奏される音楽の中で互いに触れ合う二人。
最初はゆつくりと、次第に激しく。

囚人1 僕は今、君に触れている。君の髪に、君の額に、君の捷毛に、君の眼に、君の鼻に、君の唇に、君の肩に、君の背中に、君の乳房に、君の腹に、君の足に、君の腕に、君の手に、君の指に。

帰ってきた男 僕は今、君に触れている。君の髪に、君の額に、君の捷毛に、君の眼に、君の鼻に、君の唇に、君の肩に、君の背中に、君の乳房に、君の腹に、君の足に、君の腕に、君の手に、君の指に。

照明が変わる。

Scene 5

男1と女1が切穴からひょっこりと顔をのぞかせる。

男1 Mizune? (見たか?)

女1 Mizubu (見たわ)

男1 Kibune Ridogo? (あいつは誰だ)

女1 Zumi (知らない)

男1 Bukinegodo? (何をしに来たんだ?)

女1 Zumi' Done Mizunebudo (知らない。私たちには関係ないことよ)

囚人1と少女に明りが差す。男1と女1は二人を盗み見ている。

囚人1 君に出会う前、僕は血まみれの短刀に傷つけられ、ひからびた葉の群れのような存在だった。僕はその中の葉の目玉がこぼしている死んだ葉のような存在だった。僕の言葉は空中にのぼってゆく嘆きの渦巻のようなものだった。けれど君と出会い、僕は変った。僕は出てゆきたい。君と一緒に行きたい。どこでもいい。君の行くところへ。帰ってきた男 君に出会う前、僕は血まみれの短刀に傷つけられ、ひからびた葉の群れのような存在だった。僕はその中の葉の目玉がこぼしている死んだ葉のような存在だった。僕の言葉は空中にのぼってゆく嘆きの渦巻のようなものだった。けれど君と出会い、僕は変った。僕は出てゆきたい。君と一緒に行きたい。どこでもいい。君の行くところへ。

少女 (手話で) そしてあなたの言葉が自由に使えるところへ。

囚人1 あるんだろうか? そんなところが?

帰ってきた男 あるんだろうか？ そんなところが？

少女 (手話で) あるわ。私は風、そして旅人。数え切れない風景と出来事を見て来たわ。
数え切れない人々と出会って来たわ。

帰って来た男は囚人1と少女の台詞を日本語でくり返す。

少女はやさしく囚人1の髪を撫でる。男1と女1が切り穴から顔をのぞかせる。

男1 Zuminebudo (忘れていた) 言……

女1、男1の口をふさぐ。

女1 Nebu！ Nebu！ Nebu！ (駄目！ 駄目！ 駄目！) Do (私たちは) Kidogo
(話します)

Dori (教えられた) Nekigo！ (言葉を)

女1は男1の口をはなして叫ぶ。

男1 Do Kidogo Dori Nekigo！

女1 Do 清潔 Go！ (私たちは清潔です！)

男1 Do 健康 Go！ (私たちは健康です！)

女1 Do 規律を Doki (私たち規律を守ります)。

少女は手話で言う。

少女 (手話で) 山、川、谷間、峠、森、そうして海。そこにあなたの土地があるわ。
囚人1 山、川、谷間、峠、森、そして海。そこに僕の土地がある……。

行きたい、そこへ。

帰ってきた男　そこに僕の土地がある……。行きたい、そこへ。
少女（手話で）連れて行ってあげる。

帰って来た男は囚人1と少女の台詞を日本語でくり返す。

少女（手話で囚人2に）そして私は戻ってくる。

囚人2　待っている……。

帰って来た男　待っている……。

少女（手話で囚人3に）そして私は戻ってくる。

囚人3　待っている……。

帰って来た男　待っている……。

帰って来た男は少女と囚人2、3の台詞を日本語でくり返す。

囚人1　さようなら、それが最後の言葉。さようなら。

帰って来た男　さようなら、それが最後の言葉。さようなら。

帰って来た男は囚人1の台詞を日本語でくり返す。

そして囚人1と少女は<町>を出てゆく。

すると男1と女1が切り穴から出て来る。

男1　出て行った。そして俺たちは言葉を取り戻した。

女1 もう教えられた言葉は話すことが出来ないわ。

男1 風に乗って、遠く開かれてゆく鐘の音。

女1 私たちを誘っている。

男1 言葉が歩いていく。

女1 一本の道。

男1 言葉が花をつけて。

女1 歌っている、歌っている。

男1 言葉が静かな歌を、

女1 歌っている、歌っている、歌っている。

男1 出て行こう。

女1 え、。

男1 言葉が道を教えてくれる。

女1 さようなら。それが最後の言葉。さよなら。

男1と女1はく町へを出てゆく。

Scene 9

<町の人々>が現われてくると歪んだ歩行で歩きまわる。

男2 Zurimi' Buburiki (囚人1が一人と夫婦者が一組)

男3 Buzunemi (町を出て行った)

女2 Kiburigo ♪ (どうすればいい?)

女3 Zubuneri (わからない)

女4 Zubuneri

男2 Zubuneri

男3 Zubuneri

打楽器が打たれる。

歪んだ体で静止する<町の人々>。

男2 Do Zumi (私たちは知りません)

男3 Do Zumi

女2 Do Zumi

女3 Do Zumi

女4 Do Zumi

また打楽器が打たれる。弾かれたように姿勢を変える<町の人々>。

男2 Do 清潔 go!

男3 Do 清潔 go!
女2 Do 清潔 go!
女3 Do 清潔 go!
女4 Do 清潔 go!

また打楽器が打たれる。弾かれたように姿勢を変えるく町の人々。

男2 Do 健康 go!
男3 Do 健康 go!
女2 Do 健康 go!
女3 Do 健康 go!
女4 Do 健康 go!

また打楽器が打たれる。弾かれたように姿勢を変えるく町の人々。

男2 Do 規律を Doki
男3 Do 規律を Doki
女2 Do 規律を Doki
女3 Do 規律を Doki
女4 Do 規律を Doki

また打楽器が打たれる。弾かれたように姿勢を変えるく町の人々。

男2 Do 忠誠を Nezu
男3 Do 忠誠を Nezu
女2 Do 忠誠を Nezu

女3 Do 忠誠を Nezu
女4 Do 忠誠を Nezu

打楽器の音は次第に早くなり、<町の人々>の動作も早くなる。狂ったように動いては静止し、動いては静止する<町の人々>と、いきあり女4が笑い出す。

女4 あの人たちは言葉を取り戻したのよ。だからこの町から出て行ったんだわ。私も出てゆく。

打楽器の乱打。のたうちまわる女4。

男2 Mizuki! (見るな!)
男3 Mizuki!
女2 Mizuki!
女3 Mizuki!
男2 Bune! (聞くな!)
男3 Bune!
女2 Bune!
女3 Bune!

やがて女4は見えない手に操られ去ってゆく。
打楽器の音が止む。

男2 清潔
男3 健康

女2 規律
女3 忠誠

〈町の人々〉は口々に四つの言葉をくり返し乍ら去ってゆく。

Scene 7

少女が現われる。

帰って来た男が叫ぶ。

帰って来た男 戻って来た！ 記憶の宝物が！

少女は囚人2の牢に入ってゆく。

囚人2 戻って来てくれたんだね。風。君の名前は風。

帰って来た男 戻って来てくれたんだね。風。君の名前は風。

少女 え、あなたの為に。

帰って来た男は囚人2と少女の台詞を日本語でくり返す。

囚人1 君がいなかった間、僕は毎晩、夢を見た。

帰って来た男 君がいなかった間、僕は毎晩、夢を見た。

少女 (手話で) どんな夢？

帰って来た男は囚人2と少女の台詞をくり返す。

囚人2 お聞き、我が兄よ、静寂を。

波打つ一つの静寂を。

谷と木霊がすべってゆく、

一つの静寂。

人々の額を地面へとひきつけて。

帰ってきた男 お聞き、我が兎よ、静寂を。

波打つ一つの静寂を。

谷と木霊がすべつてゆく、

一つの静寂。

人々の額を地面へとひきつけて。

少女は熱心に聞いている。

帰ってきた男は囚人2の台詞を日本語でくり返す。

囚人2 僕は待っていた。そして君は戻ってきた。

僕は触れたい。君の髪に、君の額に、君の捷毛に、君の眼に、君の鼻に、君の唇に、君の肩に、君の背中に、君の乳房に、君の腹に、君の足に、君の腕に、君の手に、君の指に。

帰ってきた男 僕は待っていた。そして君は戻ってきた。

僕は触れたい。君の髪に、君の額に、君の捷毛に、君の眼に、君の鼻に、君の唇に、君の肩に、君の背中に、君の乳房に、君の腹に、君の足に、君の腕に、君の手に、君の指に。

少女は頷き、帰ってきた男は囚人2の台詞を日本語でくり返す。
ゆっくりと少女に触れる囚人2。

静かに奏される音楽の中で互いに触れ合う二人。
最初はゆっくりと、次第に激しく。

Scene 00

男2と女2が物陰から現われて来る。

男2 Mizune c.

女2 Mizubu

男2 Burinemi? (あいつは人間なのか)

女2 Zumi

男2 Dobbiri (幻なのか?)

女2 Zumi

囚人2と少女に明りが差す。男2と女2は二人を盗み見ている。

囚人2 黒いち蝶々にまじって、

君が行く。

白い霧の一つの

言葉と並んで。

帰って来た男 黒いち蝶々にまじって、

君が行く。

白い霧の一つの

言葉と並んで。

帰って来た男は囚人2の台詞を日本語でくり返す。

少女 (手話で) 光は大地、大地は空、空は言葉を持っている。

帰って来た男は少女の台詞を日本語でくり返す。

囚人2 どうしても届かなかった言葉。だが君には届いた。

言葉の飢えは満された。君と出会い、僕は変った。

僕は出てゆきたい。君と一緒にいきたい。どこでもいゝ。君の行くところへ。

帰ってきた男 どうしても届かなかった言葉。だが君には届いた。

言葉の飢えは満された。君と出会い、僕は変った。

僕は出てゆきたい。君と一緒にいきたい。どこでもいゝ。君の行くところへ。

少女 (手話で) そしてあなたの言葉が自由に使えるところへ。

囚人2 あるんだろうか? そんなところが?

帰ってきた男 あるんだろうか? そんなところが?

少女 (手話で) あるわ。私は風、そして旅人。数え切れない風景と出来事を見て来たわ。

数え切れない人々と出会って来たわ。

帰って来た男は囚人2と少女の台詞を日本語でくり返す。

少女はやさしく囚人2の髪を撫でる。

男2 言・・・

女2は男2の口をふさぐ。

女2 Nebu! Nebu! Nebu!

男2は女2の手を振り払う。

男2 Bune (わかってる) Ri (だが) Kigoribu (思い出してしまった)。

女2 Kibunezu (我慢して)

男2 Bune。 Ri Kinemizu (懐かしい)

男2は声を出さずに「コトバ」と言う。女2も真似る。

男2 Kinemizu ヲコトバ

女2 Kinemizu ヲコトバ

少女は手話で言う。

少女 (手話で) 山、川、谷間、峠、森、そして海。そこにあなたの土地があるわ。

囚人2 山、川、谷間、峠、森、そして海。そこに僕の土地がある……。

行きたい、そこへ。

帰って来た男 山、川、谷間、峠、森、そして海。そこに僕の土地がある……。

行きたい、そこへ。

帰って来た男は囚人2と少女の台詞を日本語でくり返す。

少女 (手話で) 彼もそこにいるわ。そうして言葉の畑を耕しているわ。

時折、海から言葉を釣りあげているわ。

囚人2 行こう。

買って来た男 行こう。

頷く少女。帰って来た男は囚人2と少女の台詞を日本語でくり返す。

囚人2 さようなら・・・それが最後の言葉。さようなら。
帰ってきた男 さようなら・・・それが最後の言葉。さようなら。

帰って来た男は囚人2の台詞を日本語でくり返す。
そして囚人2と少女は<町>を出てゆく。

すると男2と女2が物陰から出てくる。

男2 思い出してしまった言葉。

女2 もう教えられた言葉は話すことが出来ない。

男2 記憶が甦って来る。

女2 都会の雑踏の中で荷物を盗まれ途方にくれていた私。

通りすぎる人々は皆、無言。そんな時、あなただけが声をかけてくれた。

男2 どうしたんだい？ 困っているようだね。

女2 それが最初の言葉。私は話した。困っている訳を。私の言葉で話した。

男2 俺たちは話した。互いの身の上話を。俺たちの言葉で話した。

女2 それからの日々、私たちは言葉で愛し合うようになった。

男2 やがて俺たちは抒情的な躰を重ね合うようになった。

女2 互いの躰と躰は言葉と言葉だった。

男2 言葉と言葉が部屋の中でぶつかり合うこともあった。

女2 けれど私たちは私たちの言葉を奪われた。

男2 それにつれて躰の言葉もさめて行った。

女2 今、私たちは見ている。

男2 遠のいてゆく二人。

女2 時は来たわ。

男2 出てゆこう。この<町>を。

女2 え、。

男2 さようなら……。それが最後の言葉。

女2 さようなら……。

男2と女2はく町へを出てゆく。

Scene 8B

帰ってきた男が懐かしげに空白の町を見る。
そうされる音楽

帰ってきた男

昔、私は牢獄の中で日記をつけていた
そして又、ある時は詩を書くこともあった。
例えばこんな詩だ

帰ってきた男は日記を開き詩を読む。

帰ってきた男

空ゆく月
波の上の月・・・
空をさぐる
私の広い視線
流れる低い雲
雲の中の月・・・
私の狭い視線
夜が腕を
私の窓から入れた
傷ついたきれぎれの瞬間が
牢獄の中を通り過ぎていった
私は置く、見えない断頭台に置く
ありとあらゆる私の望みの
目なしの頭を・・・

Scene 6

男3と女3が現われる。

男3 Bunemizu Do (取り残され 俺たち)

女3 Kiburigo (どうすればいい)

男3 Zubuneri (わからなう)

女3 Gori (兄さん)

男3 Dogori へ

女3 Gorimi (兄さん) 言……。

男3は女3の口をふさぐ。頷く女3。男3は手を離す。

女3 Gorimi' Mirizu' (私さ) Nekigori (言葉で) Mirizu (私さ) Buzunebudo

(育つてくれた)

Gobunezudo (千守唄を歌ってくれた)

男3 Buki' Buki' Buzumido (ねんねんこもりや) Gobuzunedo (おんねんこもりや)

Dobuneri (おんねんは) Kirizune (よごつた) Burimizubu (ねんねこな)

男3は歌い。

女3 Gorizu (兄さん) Rigori (歌さ) Budozumi (聞きながら) Mirine (私は)

Buridobu (安心して) Dobukiri (眠った)

男3 Dobuneki (おんねん) Nedoburi (寝息さ) Budozumi Mirine Buridobu

Dobuki
 女3 Ki (き) Ribu (今は) Doburiki (眠れなご)

少女が現われる。物陰に隠れる男3と女3。

少女は囚人3の牢に入ってゆく。盗み見る男3と女3。

帰って来た男は叫ぶ。

帰って来た男 また戻って来た！ 記憶の宝物が！

囚人3 信じていた。君が戻って来てくれるのを。だから楽しく待つことができた。

帰って来た男 信じていた。君が戻って来てくれるのを。だから楽しく待つことができた。

少女は頷き、帰って来た男は囚人3の台詞を日本語でくり返す。

囚人3 夕暮れが来ると、見えてくる、糸杉の木々。

帰って来た男 夕暮れが来ると、見えてくる、糸杉の木々。

囚人3 木々たちは愉し気に話しあっている。

帰って来た男 木々たちは愉し気に話しあっている。

囚人3 小鳥たちのふるえる喉。小鳥たちは話し合っている。

帰って来た男 小鳥たちのふるえる喉。小鳥たちは話し合っている。

囚人3 俺の中の君は白い布に文字を縫いとっている。

帰って来た男 俺の中の君は白い布に文字を縫いとっている。

囚人3 言葉という文字を。

帰って来た男 言葉という文字を。

少女 (手話で) 私の夢の中で、あなたは言葉を紡いだり、並べ変えて遊んだりしていた。

帰って来た男は囚人3と少女の台詞を日本語でくり返す。

囚人3 無意味が意味を作る、それが言葉。

少女 (手話で) 意味が無意味に変わる、それも言葉。

帰って来た男は囚人3と少女の台詞を日本語でくり返す。

囚人2 僕は待っていた。そして君は戻って来た。

僕は触れたい。君の髪に、君の額に、君の捷毛に、君の眼に、君の鼻に、君の唇に、君の肩に、君の背中に、君の乳房に、君の腹に、君の足に、君の腕に、君の手に、君の指に。

少女は頷き、帰って来た男は囚人3の台詞を日本語でくり返す。

ゆっくりと奏される音楽の中で互いに触れ合う二人。

最初はゆっくりと、次第に激しく。

やがて二人は躰を離す。

囚人3 風……。俺の風。君に出会い、俺は変った。俺は出てゆきたい。

君と一緒にいきたい。どこでもいい。君のゆくところへ。

少女 (手話で) そしてあなたの言葉が自由に使えるところへ。

囚人3 あるんだろうか？ そんなところか？

少女 (手話で) あるわ。私は風、そして旅人。数え切れない風景と出来事を見て来たわ。数え切れない人々と出会って来たわ。

帰って来た男は囚人3と少女の台詞を日本語でくり返す。

少女はやさしく囚人3の髪を撫でる。

少女 (手話で) 山、川、谷間、峠、森、そうして海。そこにあなたの土地があるわ。

囚人3 山、川、谷間、峠、森、そうして海。そこに俺の土地がある……。
行きたい、そこへ。

帰って来た男は囚人3と少女の台詞を日本語でくり返す。

少女 (手話で) 彼らもそこにいるわ。そうして言葉の畑を耕しているわ。

時折、海から言葉を釣りあげているわ。

囚人3 行こう。

頷く少女。帰って来た男は囚人3と少女の台詞を日本語でくり返す。

囚人3 さようなら・・・それが最後の言葉。さようなら。

帰って来た男は囚人3の台詞を日本語でくり返す。

そして囚人3と少女はく町へ出てゆく。

すると男3と女3が物陰から出て来る。

男3 泣き虫だったおまえ。

女3 決して泣かなかった兄さん。

男3 弱虫だったおまえ。

女3 強かった兄さん。

男3 二人ぼつちで生きて来た俺たち。

女3 二人ぼつちで生きて来た私たち。

男3 俺たちは言葉を取り戻した。

女3 え、。

男3 このく町へを出て行きたいかい？

女3 い、え。

男3 何故？

女3 出て行けば他人たちがいるわ。

男3 他人と話すのは苦痛なんだね。

女3 え、。

男3 こゝに残りたいのか？ 教えられた言葉の〈町〉に。

女3 い、え。

男3 何故？

女3 こゝにいても又、他人たちが来るわ。

男3 教えられた言葉話すのは、もう嫌なんだね。

女3 え、。

男3 どうしたいんだ？

女3 二人ぼつちが好き。

女3 は男3を凝視する。長い沈黙。やがて、

男3 俺はおまえを手放したくない。

女3 私は兄さんを手放したくない。

そしていきなり二人は短刀を取り出し刺しちがえて死ぬ。

暗転。

Scene 1-0

平手打ちされたように明るくなる舞台。
元は囚人だった男たち三人が言葉のゲームをしている。

囚人1 A
囚人2
囚人3 あ
囚人1 B
囚人2
囚人3 い
囚人1 C
囚人2
囚人3 う
囚人1 D
囚人2
囚人3 え
囚人1 E
囚人2
囚人3 お
囚人1 F
囚人2 か
囚人3 G
囚人2
囚人3 き

囚
人
2 1 3 2 1 3 2 1 3 2 1 3 2 1 3 2 1 3 2 1 3 2 1 3 2 1 3 2 1 3 2 1 3 2 1 3 2 1
P そ O せ N す M し L さ K こ J け I く H

囚人3 たちつてと
 囚人1 Q
 囚人2
 囚人3 なにぬねの
 囚人1 R
 囚人2
 囚人3 はひふへほ
 囚人1 S
 囚人2
 囚人3 まみむめも
 囚人1 T
 囚人2 (終り)
 囚人3 やゆよ
 囚人1 U
 囚人3 らりるれろ
 囚人1 V
 囚人3 わ
 囚人1 W
 囚人3 を
 囚人1 X
 囚人3 ん
 囚人1 Y
 囚人3 終り
 囚人1 Z

少女が現われる。愉し気に三人を見ている少女。

囚人2 (言葉が)

囚人3 作る

囚人1 World is

囚人2 (限りなく)

囚人3 広い

囚人1 Wind

囚人2 (風)

囚人1 We

囚人2 (風が)

囚人3 好きだ

囚人1 Our Wind . . . You . . .

囚人2

囚人3 俺たちの風 . . . 君 . . .

(僕たちの風 . . . 君 . . .)

囚人たちと少女は笑い乍ら去ってゆく。
帰って来た男に細い光が差す。

帰って来た男 言葉は言葉は言葉たちだ。

言葉たち足す言葉たちは会話だ。

言葉引く言葉は無だ。空白だ。虚無だ。

何の会話も産み出さない無、空白、虚無だ。

昔、俺は教えられた言葉を覚えようとして出来ず
牢獄に閉じ込められ、風と言う名の少女に助けられく町へを出た。
今、俺は過去を見ている。見ている。見ている。

暗転。

